

祐樹式・特別レポート

フランス語・ドイツ語・イタリア語を同時習得する方法

英語を楽しもう！六単塾
塾長 祐樹せつら

僕はいま、言いたいことはパツと英語で言えます。ネイティブの言うことは全部聞きとれる状態です。

といってもネイティブのレベルではないですよ、まだまだ。ネイティブレベルってみなさん簡単に言いますが。そんな簡単にネイティブクラスの英語力をつけれるもんじゃありませんからね実際。英語の世界は深いです。

だから僕はいまも英語を日々精進して学んでいます。ネイティブとの経験の差をすこしでも埋めるために、日々学んでいる。そのほうが楽しいからね。

そして、そのついでといたら失礼かもしれないんですが、「フランス語」「ドイツ語」「イタリア語」も一緒に学んでいます。

あくまで部分的にはありますが、確実に言葉はわかるようになってきてるし、パッとと言えるようになってきている。フランス語も、ドイツ語も、イタリア語も。

「そんなことできるの！？ほんまに？」

「英語だけで大変なのに、ほかの言葉なんて無理…」

そう思われていることではしょうが、できるんです。やり方を工夫すればね。

安心してください。僕はすごい能力をもった人間ではありません。ただの平凡な人間です。英会話ができなくて絶望的に悩んでいた期間は、すごく長かった。

しかも僕は、もともと日本語でも会話するのは得意ではないです。しゃべり下手で奥手で、内にこもるタイプの人間です。そんな平々凡々な人間が、どうやって3ヶ国

語も理解して話せるようになったのか？

すごく簡単なことなんです。

言語から文法を切り離せばいいんです。

言語から文法を切り離せ！

言語から文法を切り離すってどういうことか？

わけわかんないとおもいますが、すごく簡単な話なんで、そのまま読んでくださいね。

フランス語、ドイツ語、イタリア語。この3つの言語を習得するのを難しくさせてるのは何だと思います？

それは「文法」です。

文法という面において、フランス語とドイツ語とイタリア語はそれぞれ決定的に違う。だから難しいのです。

「単語や発音や文字も違うやん」と思われたかもしれませんが、確かにそうですね。

でも、単語や発音や文字というのは、覚えたらなんとかなるでしょう？だからむずかしくはないんです、別に。子どもが九九を覚えるのと同じです。理屈無しに覚えれば済む世界なので、むずかしくはない。

一方で、文法というやつはルールです。ルールを覚えるというのはむずかしいし、がんばっておぼえても結果にすぐ結びつかないんですよ。だから強敵なんです。

たとえばフランス語・ドイツ語・イタリア語は、文法としてみたらかなり違いがあります。文法という存在が決定的に言語習得をむずかしくしています。

何度も言いますよ。文法という存在が、フランス語・ドイツ語・イタリア語の習得を難しくさせている。

ここで、「何言ってるねん。もっと気合を入れて文法勉強すればええやろ！」と言う猛者もなかにはいます。もし

あなたがそうなら、がんばってください。僕はそれしか
言えません。応援してます。

ただ、僕にはそんな暇もないし、そもそも文法というの
が大嫌いなんです。むずかしいくせに、ちっとも言語が
使えた実感がない。即効性もない。ちっとも話せない。
そんなムダなことに時間を使いたくない。

だから僕は文法という山を登らないことにしました。文
法をつかわずに言語を習得することに、頭をシフトさせ
たのです。

具体的にどうするかというと、**言語を暗記ゲームにした**
のです。

言語を暗記ゲームにする

もう答えはわかりましたね。そうです。

フランス語もドイツ語もイタリア語も「暗記ゲーム」に

するんですよ。言語から文法を切り離す、とはそういうことです。

会話フレーズをおぼえる暗記ゲームにするんです。そうすれば文法を一切つかわずに済みます。意味わかりますかね？

たとえば僕は、いまも昔も英会話フレーズをおぼえまくっています。そう、英語を暗記ゲームにしている。

たとえば「シャワーが壊れている」という日本語に対して、「ダシャワーダズンワーク」という英語をおぼえている。それだけです。簡単でしょ？

「シャワーが壊れている」と「ダシャワーダズンワーク」のセットをおぼえるだけ。簡単なお仕事です。

ちなみに「ダシャワーダズンワーク」。ここにはアルファベットすらありませんね。発音のカナしかありませんよね。文法の存在すらありませんね。

ということは、同じことがフランス語・ドイツ語・イタリア語でできるわけです！

そうです。「日本語と、外国語のカナ」のセットをおぼえまくる。暗記ゲームにしちゃう。そうすることで、文法の存在を完全に消し去ることができます。

それだけじゃありません。即効で使えます。すごくラクなんです。海外のホテルでシャワーが壊れたら、フロントに「ダシャワーダズンワーク」て言えばいいんですからね。小難しい文法など、いっさい不要。あなたも今日からできます。

そして、同じことをフランス語・ドイツ語・イタリア語でもやればいいんですよ。そうすると、**すべての言語が暗記ゲームになる**んです。

言語というのは、結局は「暗記ゲーム」です。英語・フランス語・ドイツ語・イタリア語、すべて暗記ゲームにできます。

ですから同時習得にみえているかもしれませんが、**実際やっていることは結局 1 つの暗記ゲームをやっている**んですよ。そう理解していただければ幸いです。

言語の垣根をとびこえろ！

いいですか。英語もフランス語もドイツ語もイタリア語も、言語の垣根を飛び越えられます。「言語を暗記ゲームにおとしこむ」という戦略をつかえばね。

そうすると後は、どんな言葉をおぼえるか。どれぐらい効率的におぼえるか。どれだけたくさんおぼえるか。そして自分の役に立たせるかということを考えるわけなんです。

もうこの時点になると、フランス語とかドイツ語かそういう次元を超えた話になってきます。

「暗記効率」とか「時間の作り方」といった、テクニックの話になってくるんです。

すべての会話をおぼえる必要はない

ところで、複数の言語を同時習得するからといって、**ネイティブのように全部の会話をおぼえる必要はない**ですよ。

たとえば「シャワーが壊れました」。僕はフランス語とドイツ語でどうか、いま思い出せません。

イタリア語は確か「ラ・ドッチャ・ノンフンツォーナ」だったかな……。あまり自信ありませんけど、確かこんな感じだったと思います。

というのは、僕、イタリアに滞在することが多いので、**ホテルの会話はイタリア語中心に覚えている**んです。

フランスやドイツにはほとんど滞在しません。だからホテルの会話はフランス語・ドイツ語ではおぼえていない。

ちなみに僕がフランス語を学びたいのは、フランスサッカーの実況中継を聞いて、アナウンサーの話しているこ

とを理解したいからなんです。つまりリスニング中心。理解したい言葉は「アナウンサーの言葉」です。だからそういう言葉中心におぼえました。

ドイツ語は、研究論文を読みたいという理由で学んでます。リーディング中心。だから論文に出てくる言葉ばかりを覚えてますね。ただ、どうしてもドイツ語自体を翻訳にかける必要があるんで（外注してます）、その手間は少しありますけど。

そういう意味で、ドイツ語の進みが一番遅い感じですね。僕の中では。イタリア語>フランス語>>>>ドイツ語。習得の速度としては、こんな感じです。

つまり、僕は複数言語を同時習得はしてますが、言語ごとに習得レベルにばらつきがあります。

言語ごとに目指すところも違います。

たとえばフランス語なんて、僕にとってはサッカー中継さえ聞きとれたらいいと思ってます。だってそれ以外に

使い道ないんですもの。だからサッカー中継に関係のないフランス語会話は聞くことすらしていないんですよ。確信的にね。

でも、**それでいいんですよ。楽しくやれば。**

結局やりたいことって、自分が聞きたいこと、話したいこと、読みたいこと、書きたいことだけを、必要な言語で実現できればいいわけです。それ以外のことを学んでも、正直僕にとってはムダとしか思えないです。

人生も時間も有限だからね。時間をうまくつかって、頭をつかってできるだけラクして人生を楽しむのが正解だと僕は思っています。